

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：25302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10263

研究課題名(和文) 心疾患をもつ高齢者のDNAR選択に対する看護師の意思決定コーチングの教育開発

研究課題名(英文) Educational development of nurses' decision making coaching for DNAR choice for the elderly with heart disease

研究代表者

長崎 恵美子 (Nagasaki, Emiko)

新見公立大学・健康科学部・講師

研究者番号：70781558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：心疾患をもつ高齢者のDNAR選択に対する意思決定支援において、看護師は不十分な支援体制の中で悪い知らせを伝える難しさや自身のスキル不足を感じていた。また、多職種間での関係性の難しさや高齢に伴う機能低下に対する複雑な対応、患者の思いを尊重できないジレンマがあった。入退院を繰り返す中で意思確認の時期を逃すなどタイミングの困難感も抱えていた。

看護師には、心疾患やDNAR選択に対する意思決定支援に関する専門的知識に加えて、高齢者とのコミュニケーションスキルや対象者、多職種間での調整力が求められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

DNAR選択を含む意思決定支援は、自律原則を基本とした多次元の現象であり、決定時の葛藤、医師とのコミュニケーションの難しさ、ヘルスリテラシー能力等は、意思決定への満足感や後悔に影響する。心疾患をもつ高齢者に対するDNAR選択の意思決定支援上の困難を明らかにすることで、看護師に求められる支援の方向性が見いだせた。それは、患者や家族が満足できる意思決定支援の効果的な教育の方向性を示す一助になる。

研究成果の概要(英文)：In decision making for DNAR choice in elderly with heart disease and the nurses felt difficulty in delivering bad news in the face of an inadequate support system and their own lack of skills. In addition, nurses faced difficulties in multi-professional relationships, complex responses to functional decline associated with old age, and the dilemma of patients' wishes not being respected. Nurses also faced timing difficulties, such as delays in the timing of confirming intentions as patients were repeatedly admitted and discharged from the hospital. In addition to expertise in decision support for cardiac disease, nurses need to be able to communicate with the elderly and coordinate among subjects and multidisciplinary professionals.

研究分野：基礎看護学

キーワード：心疾患 高齢者 DNAR選択 意思決定支援 教育コーチング

## 1. 研究開始当初の背景

心疾患の終末期は増悪と緩解を繰り返すため、予後予測のタイミングを図ることが困難と言われ、治療技術の進歩により重症例や超高齢者に対する救命が可能となり、治療方法の選択や限界が多様化するなど、多くの倫理的問題を孕んでいる。

終末期における治療の開始・不開始及び中止等のあり方は、法律やガイドラインが具体的に整備されていないうえに、患者と家族の意向の不一致、コミュニケーション不足や医師に意思決定を任せる伝統的な考え方が強い傾向があるなど、医師と家族を含めたあり様が多様で、わが国独自のあり様でもある。

DNAR 選択を含む意思決定支援は、自律原則を基本とした多次元の現象である。決定時の葛藤、医師とのコミュニケーションの難しさ、ヘルスリテラシー能力等は、意思決定への満足感や後悔に影響する。そのような背景を踏まえたうえで、心疾患をもつ高齢者に対する DNAR 選択の意思決定支援を行う看護師の抱える困難を解決できる意思決定コーチングを基盤とした意思決定支援の研究を行う必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

看護師の心疾患をもつ高齢者に対する DNAR の意思決定支援上の困難と感ずる実態を明らかにすることで、心疾患をもつ高齢者に対する DNAR 選択の意思決定支援において、患者や家族が満足できる効果的な教育コーチングを開発する基礎的資料とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 文献研究

医学中央雑誌 Web 版を用い、「心疾患」and「高齢者」and「意思決定」をキーワードとして検索し、わが国における心疾患をもつ高齢者に対する意思決定支援について記載されている文献から支援に関する内容について整理し、カテゴリー化した。そこから、看護師の意思決定支援の現状について明らかにした。

### (2) The University of Ottawa Heart Institute 視察

カナダにおいて医療における意思決定支援に先駆的に取り組んでいる School of Nursing、University of Ottawa および University of Ottawa Heart Institute、ならびに研究協力者である Dr. Dawn Stacey と The Ottawa Patient Decision Aids Group メンバーで、University of Ottawa Heart Institute の Affiliate Researcher でもある Dr. Krystina B. Lewis を訪問し、カナダにおける心疾患患者・家族を対象にした教室への参加や遠隔診療の実際の見学などを行い、心疾患患者および家族への意思決定支援の実際についての知見を得た。

### (3) 意思決定支援を行う看護師へのインタビュー

日本における心疾患患者の DNAR 選択に対する意思決定支援について、文献検討や研究結果からインタビューガイドを作成した。実施する研究計画書を完成し、本研究代表者が所属する倫理審査委員会に申請し、承認を得て実施した。

調査対象は、中四国地方にある約 500 床の独立した循環器内科病棟あるいは CCU を有する施設で、循環器病棟に勤務する経験年数 5 年以上の看護師とし、半構成的面接を行った。施設の看護部長ならびに対象者に、研究趣旨、目的、方法、倫理的配慮等を説明し、自由意思の尊重、個人情報保護等について説明し、書面で同意を得た。インタビュー内容は、心疾患をもつ高齢者の DNAR やエンドオブライフケア選択の意思決定支援、困難感や効果的と考える支援や思いについてであった。インタビュー内容は、対象者の同意のうえで録音し、逐語録を作成した。その後、質的帰納的に分析した。

## 4. 研究成果

本研究目的を達成するために、以下の通り実施した。

### (1) 文献検討

わが国における心疾患をもつ高齢者の意思決定支援に関する文献は、2012 年以降に文献数が増加していたが、症例研究や総説が全体の 74% を占め、介入研究などはなかった。意思決定支援の内容については、4 分割表を活用した倫理分析やアドバンス・ケア・プランの使用、ガイドラインに基づいた早期情報提供を行っていた。支援には、プロセスを踏みながらかかわっていくことを重要視していた。心疾患特有の予後予測の難しさから症例ごとに検討され、時期を逃さない支援、時間的猶予の見極めが必要であった。また、看護師のスキルとして、疾患に関する知識の獲得や患者の理解度の確認、早期の説明と一緒に考える姿勢が特徴として挙げられた。多職種連携として、患者や家族の意思・意向の共有の場を設け、対象者だけでなく関係者との話し合いを重ね、評価と合意形成の協働の重要性が述べられていた。

### (2) カナダにおける心疾患を有する高齢者の管理

オタワ大学病院循環器研究所は、北米でも有数の循環器専門病院で、全土から多くの患者が訪れていた。日本と同様に高齢化が進んでいるカナダでも、心疾患を有する高齢者は増加している

が、心臓遠隔医療監視モデルといった自動音声応答装置と遠隔モニタリングを使用して、心不全リスクの高い患者に支援を行っていた。このシステム導入により心不全患者の救命救急センター受診や再入院率を 54%削減した実績があった。高齢者でも簡単な操作であり、今後の日本でも活用が期待される。また、視察により、カナダにおける循環器疾患をもつ高齢患者へのエンドオブライフケアは、事前指示等の確認が十分でないために意思決定支援における困難な状況も存在していることがわかった。しかし、退院後の継続ケアが十分に行われていることで患者満足度の向上や疾病コントロールの促進につながっていた。

### (3) 意思決定支援を行う看護師の困難感について

循環器病棟もしくはCCUに5年以上勤務する看護師10名にインタビューを実施した。対象者の平均経験年数は10.4年で、うち2名が心不全看護分野の認定看護師資格を有していた。

対象者の語りから、「意思確認の遅延」「不十分な支援体制」「高齢であることの複雑さ」「死に関する内容の聞きづらさ」「意思確認のためのスキル不足」「医師との関係性の難しさ」「統一が図れないケア」「患者や家族の意向を尊重できないジレンマ」といったカテゴリーを抽出できた。

看護師は、急変する可能性が高い疾患と高齢者といった特徴から、急変が起こった時に意思確認できていないことを不安に思っており、状態が悪化して入院すると治療で改善することを目指すため、意向を確認することが行われにくい現状があり、病状が厳しい時にのみ確認するという意識が強い傾向にあった。病状がよくなるとDNAR確認をしなくてよい雰囲気になるとも語っており、急変時に確認するという意識のずれが生じていた。各施設では、「不十分な支援体制」が多い現状があり、意思確認の方法や結果についての記載の決まりがないことが多く、指南書となるものが全くない状況での意向の確認は、看護師にとって難易度が高く、躊躇する原因となっていた。勤務状況や医師が独自で確認を行ってしまう、救急外来で意向の確認がされてしまうなど、状況によっては意思確認の場に立ち会えないことで、患者や家族の意思や反応がうかがい知れないことに戸惑いを感じていた。また、事前指示書があっても、その通りにならないことから意味をなさないといった、システムが確立されていない現状からの支援の難しさもあった。

心疾患は、寛解と増悪を繰り返しながら終末期を迎えるため、予後予測の判断に苦慮する。患者の状態が悪化して入院した際には、患者本人に意向を確認することができず、家族等の意向が優先されるが、病状が改善して、本人に意向を確認できる段階になっても行われず、繰り返しの入退院の中で意向の確認をするタイミングを推し測ったり、必要性を感じながらもよくなるから聞かないといった、再確認する時期を逃すことが起きており、「意思確認の遅延」があった。

また、高齢者は加齢に伴い、認知機能や自己知覚に変化が生じるが、その変化によって複雑な疾患の理解は困難を極める。また、日々反応や思いが変化するなど、その高齢者特有の反応に対して意向の確認をしていくことは容易ではなく、「高齢であることの複雑さ」を感じていた。

多くの看護師は、心機能が悪くない患者にDNAR確認をすることは不安をおおると感じていたり、DNARの話は死を連想させるなど、患者にダメージを与えてしまう危険性から「死に関する内容の聞きづらさ」につながっていた。看護師にとって、患者の人生の最終段階でどのような最期を迎えたいかという内容は、前述のとおり、死を連想させる内容につながるため気が重く、はなからDNAR確認は医師が行うものといった認識をもっていたり、患者の精神的ダメージを勝手に推し測って確認していない、患者の言葉からショックのサインを見つけるのが難しいなど、「意思確認のためのスキル不足」を感じ、自信のなさも意向の確認ができない誘因となっていた。

チーム医療の中で、医師の病気をよくしたい価値観と看護師の患者の意思尊重を大切にしている価値観の溝にジレンマを感じ、治療に意見をすることは看護師の範疇を超えると躊躇したり、チーム医療の中で医師との関係性を保っておきたいといった「医師との関係性の難しさ」や看護師間でも価値観がそろわない「統一が図れないケア」といった困難があった。

患者と家族の意向に不一致が生じることは、心疾患に限らずおこる現象であるが、患者の状態が悪いが故に家族の意向が優先されていき、本人への再確認がされないままであったり、家族に遠慮して本心を言えない患者を目の当たりにしてジレンマを感じたり、十分な説明がなされないままでの意向の確認に疑問を感じるなど、「患者や家族の意向を尊重できないジレンマ」は複雑な様相を呈していた。

わが国における心疾患をもつ高齢者に対するDNAR選択にかかわる看護師の意思決定支援の困難感には、複雑かつ多様な背景があった。看護師が自信をもって意思決定支援が実践できるようになるには、心疾患の病期を踏まえた確認のタイミングや意向確認内容に関するマニュアルの作成、決まり事の整備といったシステム作りの確立と同時に、看護師への心疾患やDNAR選択の意思決定に関する専門的知識の提供やタイミングの見極め等を盛り込んだエイドの作成、それらを活用した実践スキルの強化、高齢者に対するコミュニケーション技術の獲得、患者や家族だけでなく多職種間との調整能力に関する教育の取り組みが必要と考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 伊東美佐江、森山美香、服鳥景子、小野聡子、秋鹿都子、長崎恵美子、濱松恵子、片岡恵理、坂井真愛、深谷由美、岡本名珠子、久我原朋子、松本啓子
2. 発表標題 患者とその家族の価値観を尊重する意思決定支援プロセス
3. 学会等名 日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagasaki Emiko, Ono Satoko, Hamamatsu Keiko, Moriyama Mika, Ito Misae
2. 発表標題 A Research Trend on Decision making for the elderly with heart disease in Japan
3. 学会等名 The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 長崎恵美子、小野聡子、森山美香、伊東美佐江	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 8
3. 書名 月刊ハートナーシング	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊東 美佐江  (ITO MISAE)  (00335754)	山口大学・大学院医学系研究科・教授    (15501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 聡子  (ONO SATOKO)  (20610702)	川崎医療福祉大学・保健看護学部・講師    (35309)	
研究分担者	森山 美香  (MORIYAMA MIKA)  (50581378)	島根県立大学・看護栄養学部・准教授    (25201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関